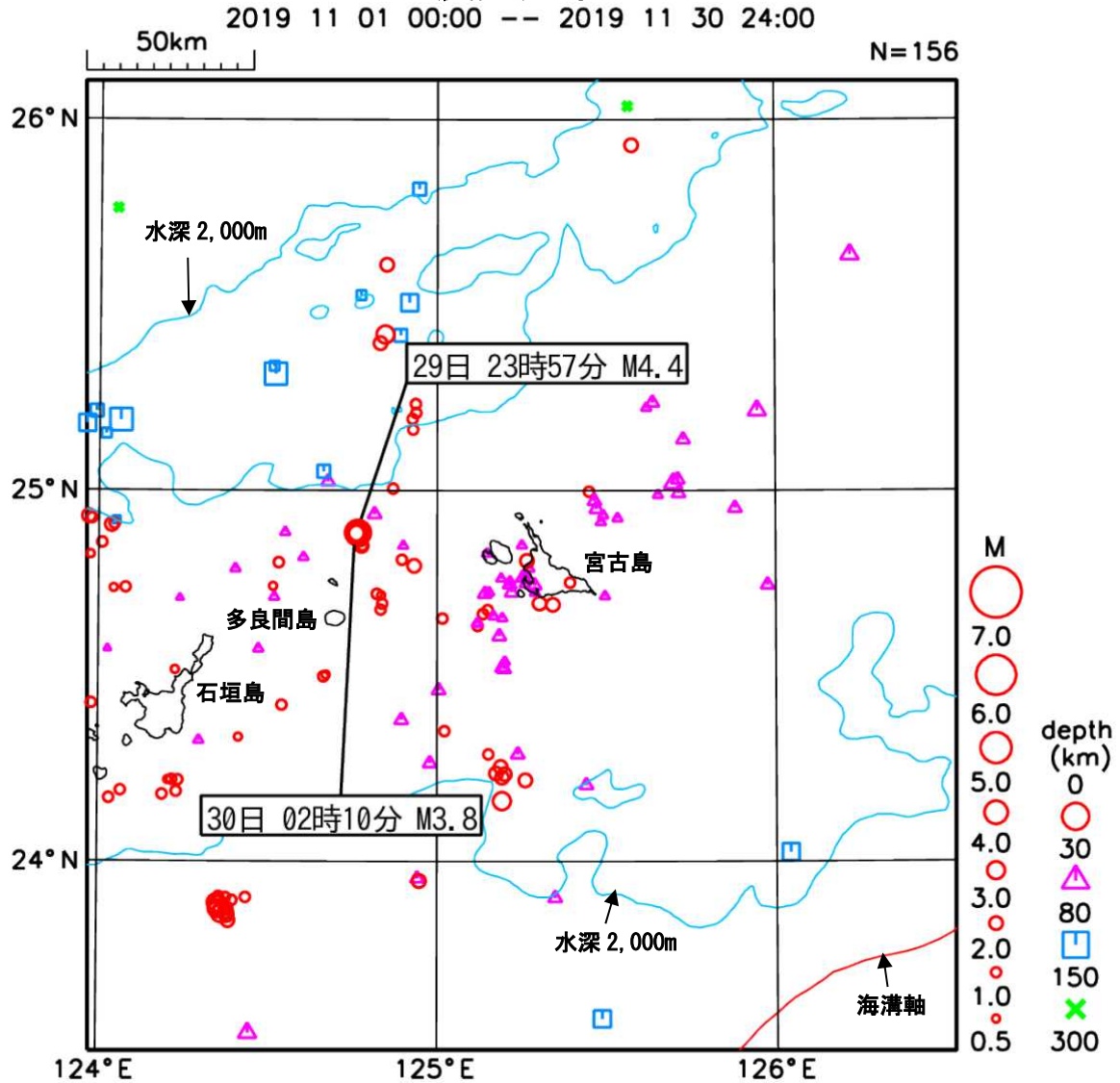


宮古島地方の地震活動図

令和元年（2019年）11月

宮古島地方気象台

震央分布図



図中の記号 M : マグニチュード depth : 震源の深さ
N : 地震の回数 (マグニチュード0.5以上の回数です。)
宮古島地方で震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

【概況】

今期間、宮古島地方で観測した地震は156回（10月242回）で、震度1以上を観測した地震は2回（10月4回）でした。

29日23時57分に宮古島近海で発生した地震（M4.4、深さ11km）により、多良間村で最大震度2を観測したほか、宮古島、伊良部島で震度1を観測しました。この地震の震央付近では、30日02時10分にも地震（M3.8、深さ12km）が発生し、多良間村で最大震度1を観測しました。いずれも陸域プレートの地殻内で発生した地震です。

宮古島地方で震度1以上を観測した地震の表(期間:11月1日～30日)

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2019年11月29日23時57分	宮古島近海	24° 53.1' N	124° 45.9' E	11km	M4.4
沖縄県	震度 2 : 多良間村仲筋*				
	震度 1 : 多良間村塩川, 宮古島市平良池間, 宮古島市伊良部国仲, 宮古島市平良狩俣* 宮古島市下地*, 宮古島市伊良部長浜*				
2019年11月30日02時10分	宮古島近海	24° 53.0' N	124° 45.6' E	12km	M3.8
沖縄県	震度 1 : 多良間村仲筋*				

*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

宮古島地方で震度1以上を観測した地点については青字で表しています。

※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

※ 概況中の震源の深さについて

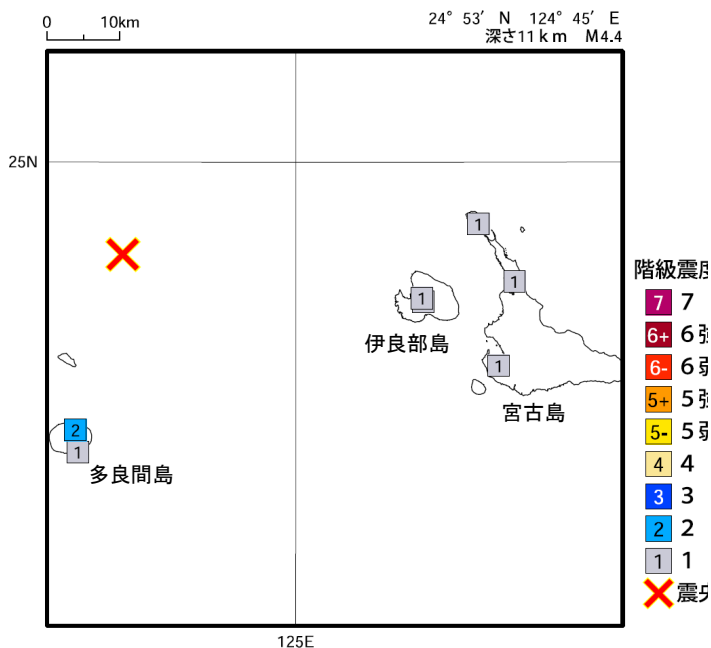
震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

宮古島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図

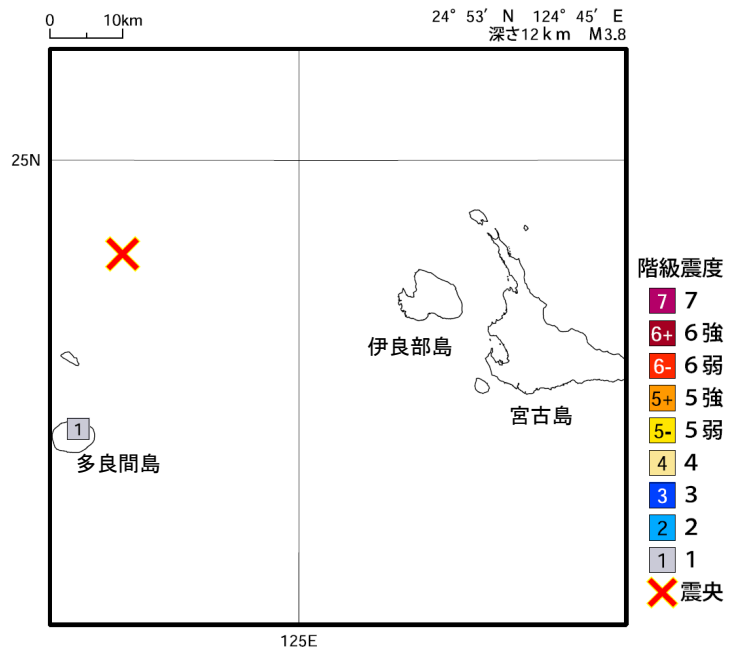
2019年11月29日23時57分

宮古島近海の地震の震度分布図

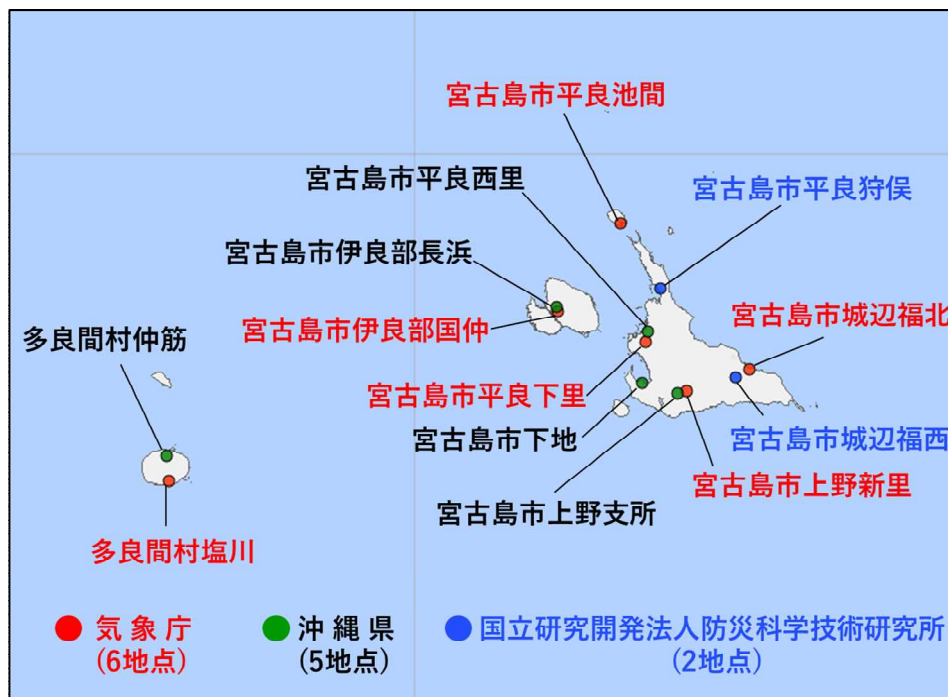


2019年11月30日02時10分

宮古島近海の地震の震度分布図



宮古島地方の震度観測地点



過去の地震活動は宮古島地方気象台のホームページで閲覧できます。

URL <https://www.jma-net.go.jp/miyako/katsudo/katsudo.htm>

本件に関する問合せ先 宮古島地方気象台 電話0980-72-3054

(地震・津波に関する出前講座を実施しています。)



11月5日は「津波防災の日」

11月5日は「津波防災の日」です。

この日は、1854年12月24日（旧暦11月5日）に発生した安政南海地震で、紀州藩広村（現在の和歌山県広川町）を津波が襲ったとき、濱口梧陵が稲むらに火をつけて、村人を安全な場所に誘導したという実話にちなみます。

東北地方太平洋沖地震による甚大な津波被害を踏まえて、2011年6月に広く津波対策についての理解と関心を深めることを目的に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、この法律で毎年11月5日を「津波防災の日」とすることが定められました。



避難訓練の様子

日本では過去に、何度も津波による甚大な被害を受けています。被害を少しでも小さくするために、津波の特徴を知って身を守る行動を取れるようにしましょう。

津波の特徴と身を守るためのポイント



津波警報を見聞きしたり、強い揺れや弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じた場合は、ただちに高台や津波避難ビルなどへ避難しましょう。



津波は沿岸の地形等の影響により局所的に高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。



津波は長い時間にわたってくり返し襲ってきます。津波警報が解除されるまで避難を続けましょう。